



透明帯電防止コーティング剤

デナトロン F-121CD

特長

- 導電性ポリマー (PEDOT:PSS) を使用
- 劣化低減タイプ
- 高透明、低ヘイズな塗膜が得られる
- 水、アルコール等の水溶性溶剤で希釈可能

用途例

- 光学フィルムの帯電防止
- 電子部品包装用フィルムの帯電防止
- 産業資材の帯電防止

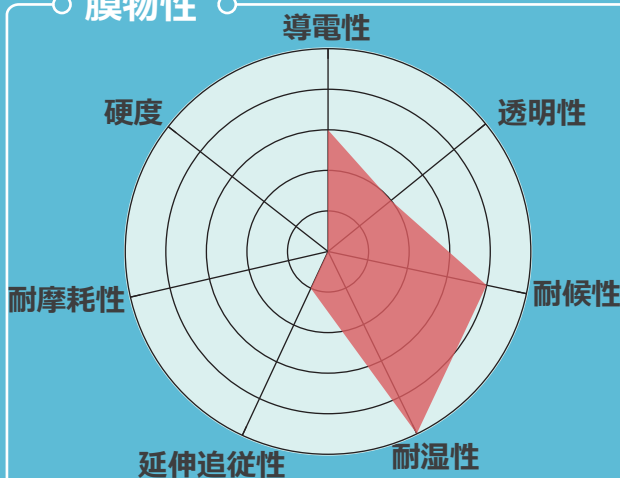
液物性

項目	F-121CD
外観	濃青色
主な成分	導電材
主な溶剤	水
pH	2~3
粘度	50~500 mPa・s
固形分	1.7 wt%
貯蔵安定性 (1~25℃)	6か月以上

塗料化のススメ

項目	推奨の添加剤	注意事項
希釈剤	水、メタノール、エタノール、IPA	添加量によっては、 その他水溶性溶剤も OK
バインダー樹脂	アクリル、ウレタン、 オレフィン、エステル系のエマルジョン、 水溶性エポキシ、シリケート	添加量が多すぎる場合、 塗膜が高抵抗になる
レベリング剤	シロキサン、フッ素化合物、 ポリエーテル	ハジキを生じる場合に添加
pH	2~10	急激な変化は避ける

膜物性



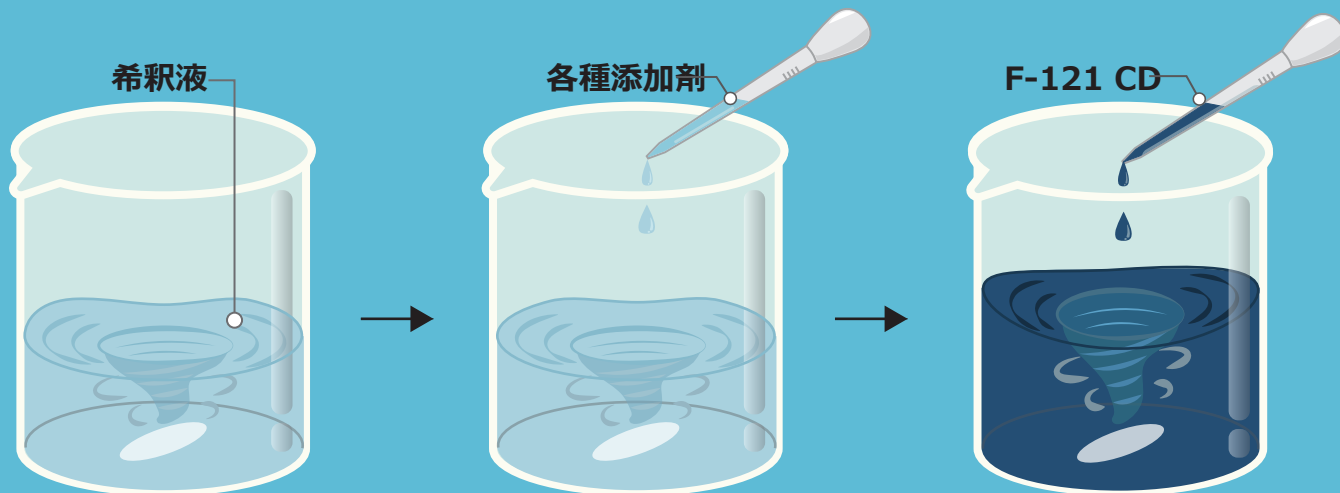
	配合比率 (wt%)			塗布量 (cc/m ²)	表面抵抗率 (Ω/sq.)	全光線透過率 (%)
	F-121CD	バインダー溶液	希釈剤			
塗工例 1	50	3	47	8	2×10 ³	97
塗工例 2	8	6	86	4	2×10 ⁵	>99
塗工例 3	4	3	93	4	2×10 ⁸	>99

バインダー溶液 : アクリル樹脂エマルジョン (固形分 20wt%)
希釈剤 : 50% 含水 IPA

耐候性試験条件 : UV 照射 1000hr
耐湿熱性試験条件 : 85℃ 85%RH 1000hr
耐摩耗性試験 : 布での乾拭き、水拭き、溶剤拭き

ご紹介いたしました各物性・データにつきましては、現時点での情報を基にした参考値・代表値となっております。品質を保証するものではありませんので、予めご理解をお願いいたします。また、製品の仕様は予告なく変更する場合がございます。ご使用の際には SDS (安全データシート) をご参照の上、ご安全にご使用ください。

液の作製方法



- 1 希釈液を準備します。
※推奨は 50% 含水エタノールです。
(水 50wt% + エタノール 50wt%)
- 2 攪拌しながら各種添加剤を添加してください。
- 3 攪拌しながら F-121CD をゆっくり添加してください。

塗膜の作製方法

- 1 ワイヤバー、スピン、グラビア、スリット、スプレー、ディップなど汎用的なコーター装置を用いて塗布してください。
推奨基材はプラスチックフィルム (PET, PMMA, TAC, PC など) やガラスです。
- 2 80~120℃、1~2 分程度で乾燥してください。
※乾燥オープンの能力によっては、乾燥不足が原因で狙いの物性が出ない場合があります。
その場合は乾燥温度や時間などを上げて、表面のタック性が無くなるまで乾燥してください。

ご紹介いたしました各物性・データにつきましては、現時点での情報を基にした参考値・代表値となっております。品質を保証するものではありませんので、予めご了解をお願いいたします。また、製品の仕様は予告なく変更する場合がございます。ご使用の際には SDS (安全データシート) をご参照の上、ご安全にご使用ください。